

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 22 日現在

機関番号：13301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20700494

研究課題名（和文） 障害者のスポーツ参加を通じた社会的統合化に関する研究

研究課題名（英文） The study on social integration through sports participation of handicapped person

研究代表者

奥田 睦子（OKUDA MUTSUKO）

金沢大学・経済学経営学系・准教授

研究者番号：90320895

研究分野：障害者スポーツ科学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード：障害者、健常者、スポーツ、統合化

1. 研究計画の概要

本研究では、障害者と健常者のスポーツにおける統合化の到達点として、「メインストリーミング化とは異なる新たな到達点がどこにあるのかを明らかにすること」および、「総合型地域スポーツクラブにおける障害者の受け入れ体制の課題を解決させる社会的しくみを構築するための方法を検討すること」の2点である。前者については、「統合」の対概念が「分化」であることから、障害者と健常者が認識上で「分化」する地点に着目し、「自己-他者」の認識課程に焦点を当てた文献研究を主として行う。後者については、ドイツの総合型地域スポーツクラブにおける障害者の受け入れ体制を手掛かりとして検討する。

2. 研究の進捗状況

(1)障害者と健常者のスポーツにおける統合化の到達点としてメインストリーミング化と異なる新たな到達点がどこにあるのか、ということについて、障害者と健常者が認識上で分化する地点に着目すると、自己の認識は「対他性」によって生じることが先行研究からわかった。その結果、メインストリーミング化を避けた統合においても、障害者が行うスポーツと健常者が行うスポーツを全て同じスポーツと考えるよりもむしろ、誰が行うかに関わらず、スポーツの捉え方として多様性の観点が必要になる。このことは、スポーツする身体を人がどのように評価するかということに依拠しているということと同じであり、スポーツをA.グッドマンが述べている近代スポーツの特徴を持つもの（世俗

性、平等性、官僚化、役割の専門化、目的と手段、合理化、数値化、記録への挑戦）としてのみ捉える限り、メインストリーミング化から逃れられないのではないかと考えられた。

(2) 総合型地域スポーツクラブにおける障害者の受け入れ体制の課題を解決させる社会的しくみを構築するための方法を検討することについては、訪独により、リハビリテーションスポーツへの医療保険制度の適用についてそのしくみの詳細が明らかとなった。クラブにとっての利点としては、障害者の受け入れに対して有用な財源であること、専門のリハビリテーションスポーツ指導者の配置ができることなどがあり、参加する障害者にとっては、同じ障害を持つ人が居住地域に近いクラブに集まることができることから、この制度によってピアカウンセリングの場としてもスポーツクラブが機能していることがわかった。また、医療保険がリスクに対する自助と所得の再分配という共助の両方の要素を持つ社会保険であることから、リスク社会である現代社会において、障害者のリハビリテーションスポーツに適用されることが受け入れられていると考察された。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

2009年6月および2011年3月に予定していた訪独による調査が、それぞれ新型インフルエンザおよび東日本大震災の発生により訪独がそれぞれ半年遅れたことによる。また、研究計画を立てた時点では把握されていなかった医療保険制度とリハビリテーション

スポーツ指導者制度の大きな制度改革が2009年～2011年にかけて行われており、変更後の制度内容、制度改革の理由、制度改革の影響等について、訪独による新たな資料収集の必要性和、それらの資料の翻訳とが追加されたため。

4. 今後の研究の推進方策

(1)「障害者と健常者のスポーツにおける統合化の到達点としてメインストリーミング化とは異なる新たな到達点がどこにあるのかを明らかにすること」については、今後、スポーツする身体への評価基準の変容が求められることからスポーツの枠組みを広く捉え、スポーツする身体として身体論の観点からも検討を行う予定である。

(2)「総合型地域スポーツクラブにおける障害者の受け入れ体制の課題を解決させる社会的しきみを構築するための方法の検討」については、2009年～2011年の制度改革の内容等について、訪独によりその詳細を正確に把握すると共に、しきみができた1950年代に遡ってその歴史的変遷について検証していく予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 奥田睦子, 健康づくりの多様性, 金沢大学人間社会学域地域政策研究センター地域経済ニューズレター92号(2011), 11-17. 査読無.
- ② 奥田睦子, ドイツにおける障害者の地域スポーツ活動への参加を支える社会的制度とその論理に関する一考察, 金沢大学経済論集31巻1号(2010), 161-181, 査読無.
- ③ 奥田睦子, 事業型非営利組織としての総合型地域スポーツクラブへの障害者の参加の社会的しきみの検討-ドイツにおける医療保険制度に着目して-, 金沢大学経済論集30巻1号(2009), 291-311, 査読無.

[学会発表] (計4件)

- ① 奥田睦子, 障害者の地域におけるスポーツ活動への医療保険適用の功罪-ドイツにおける近年の状況から-, 第14回日本アダプテッド体育・スポーツ学会, 2010年12月5日, 富山大学(富山県).
- ② 奥田睦子, ドイツの障害者スポーツ政策に関する一考察, 第5回西日本スポーツ社会学会, 2010年8月12日, 鞆の浦荘(広

島県).

- ③ 奥田睦子, 障害者の地域におけるスポーツ参加を支える社会的しきみとその意義に関する一考察, 第18回日本スポーツ社会学会, 2009年3月24日, 関西大学(兵庫県).
- ④ 奥田睦子, 障がい者スポーツ振興のための福祉・医療・スポーツ制度の制度包摂の検討-ドイツのしきみをモデルとして-, 第12回日本アダプテッド体育・スポーツ学会, 2008年12月7日, 京都女子大学(京都).